



News Letter



普賢岳



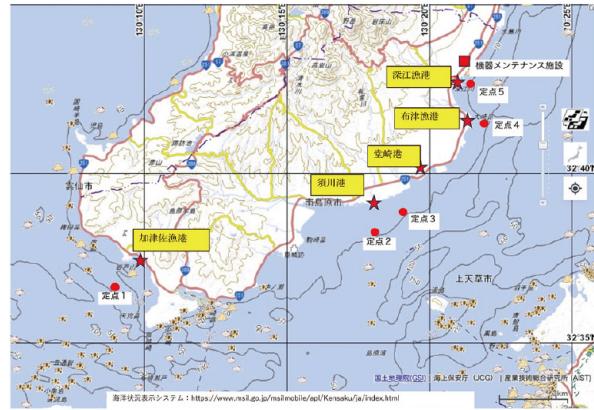
深江漁港より出港

江戸っ子1号 COEDOが南島原沖で海底調査

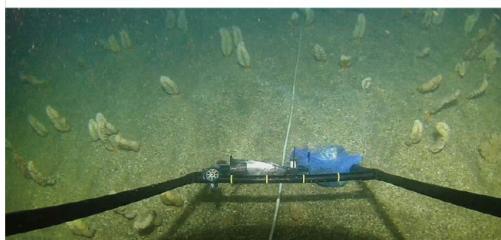
SIP海洋プログラムでは、第1期(2014年)から海底観測プラットフォーム「江戸っ子1号」の開発と展開を進めてきました。その耐久性と能力は、腐食性の高い熱水活動域観測や水深8,000mでの2年間にわたる海底長期観測などで証明されてきました。第2期(2019年)からはユーザビリティの意見を反映し、小型化と軽量化を進めた「COEDO」を開発し、漁船などの小型船舶を活用した運用試験を重ねてきました。第3期においても改良を続け、広大で多様な海洋環境でのモニタリングに対応していくことを目指しています。

SIP第3期の開始にあたり、江戸っ子1号シリーズの観測性能の向上と評価を計画していたところ、南

島原市より地元漁場での海底環境を調べるにはどうしたらよいかとの相談が飛び込んできました。水産課の担当者より状況を伺うと、南島原沖でのタコ漁などが不振になり、海底の生物生育の環境を知りたいとのこと。それならば江戸っ子1号でのカメラ観測



南島原沖調査海域



(上)9/22 加津佐沖 17時 (下)9/22 加津佐沖 19時



水産課の福田さんとビデオ映像の確認



南島原市役所での結果報告会

が理解しやすいのではと提案しました。その結果、南島原市から現地での事前調整と傭船などの後方支援を頂けることになり、環境チームは江戸っ子1号シリーズ(HSG型とCOEDO型)併せて5台とともに島原半島へと出向くことにしました。

江戸っ子1号に内蔵するビデオカメラは、新たに評価すべきものを取り入れました。車載規格のドライブレコーダやモビリティ監視用の小型ビデオカメラの活用も検討してきました。市場のカメラ性能は年々向上しており、解像度以外の機能も検討しています。今回の海底調査では、新型ビデオカメラの搭載と撮影設定条件の検証が含まれていました。調査の開始当初の映像では、配置された照明からの映り込みやレンズのピントがズレたりの問題が発生しましたが、最終的に満足できる映像になるまで調整が続きました。

南島原沖の有明海に5か所の観測点を設け、HSG型は4日間の連続観察、COEDOは一昼夜の観測をし、地元の各漁協の協力のもと設置と回収を

行い、その日のうちにデータを回収する日々でした。調査最終日に、市庁舎において漁業者、市担当職員を交えてビデオ映像の報告会を行い、海底状況と確認した生物種などの意見交換をしました。少しばやけた映像もありましたが、日々漁を行っている地元の方からは初めて見た海底の映像に感嘆の声がありました。昼と夜との違い、思いもよらぬ生物種の出現など、映像情報の価値と説得力をあらためて認識することができました。

今回の海底調査では、目的とした観察性能の検証だけでなく、沿岸海域調査における江戸っ子1号の適切な運用を進める良い経験とノウハウを得ることができました。有明海の南島原沖での海底調査は、地元の市長をはじめとする多くの方々から感謝と期待をいただき、加えて地元の新聞社から受けた取材では、1面記事に取り上げていただきました。その論調からは、海洋温暖化による漁場環境の変化が大きな関心事であることを見てとれました。これもまたSIP海洋プログラムの環境モニタリング技術が貢献していく課題であると感じています。

参考資料

南島原市役所水産課のホームページ https://www.city.minamishimabara.lg.jp/kiji00310411/3_10411_60137_up_Ooqx8016.pdf

長崎経済Web <https://nagasaki-keizai.jp/other/topics/6984>



戦略的イノベーション創造プログラム
Cross-ministerial Strategic Innovation Promotion Program

海洋安全保障プラットフォームの構築 News Letter
制作・発行:SIP第3期「海洋安全保障プラットフォームの構築」

〒100-0011

東京都千代田区内幸町2丁目2番2号 富国生命ビル23階
海洋研究開発機構 東京事務所内

TEL: 03-6550-8920

E-mail: info-sip3@jamstec.go.jp

Website:<https://www.jamstec.go.jp/sip3/j/>

右記コードから
アクセスできます。▶

